授業方法について独自に工夫していること　【創造科学系】
特に図画工作のような分野は得手不得手の差が大きいので、苦手意識の強い学生はそもそも興味を示さない傾向が強くあります。そこで、学生たちが抱いている図画工作のイメージを崩すようなテーマで授業を展開し、意外な驚き等で興味を持ってもらうように心がけています。
15回の授業を4つの課題で構成している。①は烏口や溝引き、マスキングを用いて、明度に合わせながら絵の具を塗る練習②は丸・正三角形・正方形・直線一本を用いて明度対比を考えながら色面構成を行う③広告写真をトレースしてポスターカラーで彩色する④実物（今年度はキャンディー）を観ながら描写する。①では、丁寧に塗る指導をしている②では、構成の仕方（明度と色相）について指導している③では、画像を色面分割し彩色することで再現できることを実感する④実物を描写し再現することで描くことに苦手意識を無くす基礎的な絵画技法・描写と構成について教えている。
昨年度の授業の反省事項から、グループ学習としての模擬授業の回数を減らし、学生たちが模擬授業を行うのに必要な知識と技能の修得に9回分の授業を行った。授業内容は、モチーフに応じた小筆・中筆・大筆の使い方と観察の方法を学ぶもので、これを修得するとたいていのものが上手に描けるようになる。また、英語による授業であったが、学生とのコミュニケーションに関わる「授業改善のためのアンケート」の結果は、昨年よりも①と回答した学生が増えた。受講学生たちが英語をアウトプットすることに躊躇しないで間違っても気にせず勇気を出して臨んでくれたことが良かったと思う。 学生に限らず、絵が上手く描けない殆どの原因は、絵の具を惜しむためであるとわかってきたので、授業中に使用する絵の具は、授業者の教育費から拠出して自由に好きなだけ使えるようにした。
実践場面のVTRを視聴させながら実践上の問題と講義による理論を融合させている。 学校現場における最新の課題について講義で取り上げている。最新の課題は、授業者自身が毎年学校現場に行ったり、教員研修で会った県内の教師から収集したもの。 また、教育実習を見通して学習指導案の論理を詳細に講義するとともに、実際にシミュレーションで作成させるとともに、これを学生同士ピアレビューさせている。
課題について①個人で記述させ、②グループごとに話し合いをさせ、③シェアリング、④感じたいことや考えたことを記述するという流れで進める。
・今年は猛暑が続いたので、例年になく休憩時間を多く取り入れた。 ・実技テストの内容を最初の段階で明示し、それを意識して反復練習させた。
小学校体育の運動領域は教科書がないため、学習指導要領及び解説を参考にしている。ただし、運動教材を読んでもなかなか授業づくりのイメージがもてないと考えて、3つの工夫としている。 ①　事前に次回の内容に該当する領域の体育映像を視聴してくる（Youtubeの文科省デジタル教材） ②　授業では、担当者が①から事前に考案した20分の運動教材を発表し、意見交換する。 ③　②での問題点等を整理して、具体的な打開策となるアイデア（教材や授業の進め方等）として、授業映像を視聴する
グループによる学習を多く取り入れながら授業を組み立て、学生が主体的に学べるように努めています。
反転授業を取り入れて，次の時間に向けての課題を出すことを心掛けている。
産業、文化、社会面等の他分野の話題の資料を使って、技術教育を考えることを行いました。
グループワークによる学習を軸にして授業を組み立て、教え合い活動を促すようにした

これらの授業は、小中学校の音楽教員として学校内音楽活動（合唱コンクールや学習発表会、音楽系部活動等）を担うために必要な知識と技術を身に付けるものであるが、広く一般の音楽教育（お稽ごとや一般音楽団体等）に関わる事柄にも興味関心を抱かせるように工夫したつもりである。概ね、受講者には受け入れてもらえたと判断しているが、「難易度が難しすぎる」と回答した者が若干名いたことから、「難易度を落とす、内容を簡単なものにする、課題の量を減らす」等を検討している。しかし安易な方向へ合わせていくことに疑問を感じている。
授業を学生の興味に応じた内容に近づけるため，グループ討議を行い，各自の意見を授業に反映できるようにしている。 実技のみにならないように，教材を開発する時間と実践する時間に分けて授業を行っている。
両授業ともに，授業記録用紙によりポートフォリオ評価を用いることや，実技体験やグループディスカッションなどのアクティブラーニングを導入している。
学習指導要領の活字情報である形式知を、身体知として身をもって経験する
板書や口頭だけでは理解しにくい事項が多いので、わかりやすい資料の配布。
レジュメ、資料を配付することで、講義内容の記録になり、講義中や復習時活用できるようにしている。 ほとんど毎時、講義に関する小レポートや、アンケート等を実施し（出席確認のため）、次の講義の前に、解説をしている。
・小学校図画工作科の演習中心の授業であるため、具体的で分かり易い授業をこころがけた。 ・全１５回の授業に、絵の具指導、版画指導、デザイン指導、工作指導、道具の使い方などの実技演習はもちろん、学習指導要領や著作権などの知識等も満遍なく取り入れるシラバスを計画した。 ・後で振り返りができるよう、毎時間ごとに資料や文書を作成し配布した。 ・配布資料や製作した作品を保管するファイルを学生に準備してもらい、「図画工作科ファイル」として一人一冊ずつ作らせた。
水彩絵の具や彫刻刀の正しい使い方を学生に身に付けさせたり、児童の作品の評価のポイントを学ばせたりして、実際に教壇に立った時に困らないような授業を行うことを心掛けた。
初回のガイダンスにて、履修学生に対して、本授業に対するニーズを聞き取ったり、アンケート調査を行ったりして、図画工作科教育の特に「指導法」について求められる内容を集中的に取り扱った。また、履修対象が4年生であり、3年次に主免実習を行っていることもあったため、より教育現場での実践に役立つ内容に特化して授業計画を立てた。1コマの授業の中でも、理論的な講義のみに終始することのないよう、1授業の半分は講義、残り半分は講義で触れた実践的内容をあらかじめ当方が用意した材料・用具を用いて行うように心掛けた。その結果、履修学生には、理論と実践を効果的に学修することができたと思う。その結果は、問1の設問で、①強くそう思う、②ややそう思うの肯定的回答が総計96.4%であること、設問14の③ちょうどいいが100%であることからも伺える。その他の設問も、④あまりそう思わない⑤全くそう思わないに該当する否定的な回答を除く総計は全て90%以上であることから、全般的な授業評価は高いといえると判断した。
競技経験を活かした内容を、学生の視点で消化できるように工夫して臨んだ。 毎回の授業始めに振り返り学習を取り入れる等、学生にとって新たな知見になり得る部分への理解を深められるよう工夫した。 7月実施の授業では、熱中症対策を施した。
音楽の授業なので、まずは、実際に音を出したり、歌ったり、つくったりすることに積極的に取り組んでもらうこと、そのうえで、音や身体を通して、気づいたり、考えたり、試行錯誤ができるようになることを目指しています。ただ単に音を出す、だけでなく、グループでお互いに聴きあったり、相談したり、他のグループの工夫を取り入れたりする時間を確保するようにしています。

実技の授業になるが，教え込んでできるようにさせるものではなく，学生の個性を引き出せるようにしている．学生の主体的な活動が引き出せるように，2人組の活動を中心にしたり多様な人とペアを組ませ新しい一面を発見できるようにし，身体をダイナミックに動かせるような教材の工夫をしている．
小学校の音楽の授業で児童が学ぶ音楽的課題や内容、学習指導要領に取り上げられている共通教材や共通事項、音楽的要素や仕組みなどを、表現（歌唱・器楽・音楽づくり）や鑑賞の活動をしながら、まず実際に学生さんたちに体験してもらい、音楽そのものの理解や表現力を深めた上で、音楽の授業の組み立て方や進め方、展開方法、指導する際のポイントや留意点などを学ぶことができるように授業を行った。
・座学ではなく、アクテイブラーニングの授業をこころがけています。 ・ユニバーサルデザインの授業をこころがけています。
授業の終わりに、全員に振り返りカードを記入させている。その中に、授業内容に対しての自己評価も記入させている。自己評価がCが多ければ、授業方法を改善するようにしている。グループワークを多く取り入れ、主体的な学びになるように心がけている。
活動する時間を多く設け、学生同士で学びあえるようにしている。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。　【創造科学系】
出席率、課題への取り組み方、提出物を総合的に見て判断しています。
4つの課題の点数と出席100点から欠席5点、遅刻2点をマイナスし合計500点を5で割って、平均点を成績としている。
毎回の授業で描く作品を5段階、課題の作品を5段階、毎授業後のミニッツペーパーに書かれた感想文を5段階、4つの観点（知識・技能に関する目標2つ／表現に関する目標／対話に関する目標）からの自己評価（各5段階）を集計し、学期末に100点満点に換算したところ、全体的に厳しすぎる結果となったので、全員に同じだけ加算してSABCの人数バランスを調整の上、成績を出した。
毎時間学生が作成するポートフォリオに対して、①論理性②独創性の2点を重視。 ポートフォリオの主題が学校現場の最新の課題になっている。
大学生を対象に授業を進める経験がなく、評価基準については、どれくらいが基準になるかはっきりと持てていないのが現状です。記述の内容が、明確、丁寧であるか、学びに対して積極さを感じるかで結果を出しました。
指導した内容の理解度、到達度、実技テスト。
①授業中の発言等，②20分の展開案（デジタル教材参考）,③毎時間のミニレポートについて，発言・論述の論理構成と創造性を観点として，総合的に評価しました。
授業の出席状況、態度　30%、実習授業参加並びにレポート　10%、期末試験　60% で成績を評価した。
第１回目のオリエンテーションにて，評価項目と採点を明示し，その項目に基づいて成績の結果を提出した。
出席数と合格した曲数 75%、音楽的な表現にすぐれたもの 20%、進歩の度合い　5% で評価した。
弾く曲の難易度及び完成度 60%、合格した曲の数と出席 30%、進歩の度合い　10%　で評価した。
毎回の授業の振り返りレポート、一定まとまりのテスト、討論での発言・参加状況などで成績を出しています。自分の考えをわかりやすく、かつ根拠を示して筋道立てて述べるレベルがずいぶん上がっているように思いました。
①毎授業での実技課題の達成度、②人や身体との対話力、③教材をアレンジする視点
教員として勤務する場合、あるいは音楽家として演奏活動に従事する場合、いずれも遅刻と欠席は許されないことから、「出席点」を特に重視して成績評価をつけるようにしている。さらに、「知っている／知らなかった」等の大学入学以前に身に付けた知識の多寡や「できる／できない」等の技能ではなく、授業を通じて身に付けた知識や技能の「伸びしろ」を重視して成績評価をつけるようしている。そのため、欠席ゼロで課題をクリアした学生には授業態度に問題の無い限りA評価を出すようにしている。結果として、A評価が大半を占め、受講者の割合によって評価を調整する相対評価ではなく、絶対評価で成績評価を判定することになる。実技を含む技能系教科では、相対的な評価は意味をなさないと考える。

演習の授業なので，出席が大きな点数を占めている。その他，授業態度（遅刻），レポートを総合的に判断して成績を出している。
ポートフォリオで蓄積したレポートおよび，提出された実技とレポートのセット課題を毎授業で採点し，合計点を成績評価とした。
学習指導要領の体育科も目標に沿って、成績を出しました。
毎時間の授業態度、および発表（試験）に向けての努力と工夫。
授業内の小レポートや、中間テスト、小論文、期末の講義内容理解の確認テスト等、複数の評価対象を、総合的に点数化し、成績報告するようにしています。
どちらのクラスも、学生は真面目に取り組み、熱心な受講態度であった。実技演習が中心の授業のため試験は行わなかった。従って授業の欠席数、授業態度は勿論、制作した作品の出来、提出したレポートなどを総合的に評価した。定期的に提出させた「図画工作科ファイル」のまとめ方も評価に加味した。 長期欠席者1名を除くと、両クラスとも、S～Bの成績分布となった。
授業で制作した水彩画や木版画、ペーパークラフトなどの作品の得点の平均点（１００点満点）に授業後の感想を加味して評価をした。
・問題・課題への探究姿勢…30% ・実技制作への参加・発表…40% ・筆記課題の結果…30%
出席及び受講態度（60%）、課題レポート（40%）により総合的に評価する。
出席、いくつかの課題の提出状況、グループ活動での活動内容とグループ発表、途中で行う確認のテストなどの結果を総合的に判断して評価を行っています。
出席及び学習意欲，授業後のレポートで総合的に評価した
毎回、授業で理解した内容や気づきをまとめたものを提出してもらい、その提出物に対する評価、グループ発表に対する評価、試験に対する評価、授業への参加態度（出欠や遅刻、早退などを含む）などを総合評価して成績とした
提出物、毎時間のふり返り、テストの評価基準を設定し、点数を合計し、評価を出しています。
毎回の授業への参加意欲。課題の提出とその評価。作品の提出とその評価。ペーパーテスト。以上をまとめて評価を出している。
出席、授業内のパフォーマンス、レポート

アンケート結果を受けて改善したいところ　【創造科学系】
難易度が高いという評価をする学生がやや多いですが、これを易しくするということではなく、難易度が高いと感じないようにうまく導く方法を考えていきたいです。
問1「この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた。」に90％以上の学生がそう思うと答えているので授業の成果は達成できていると思う。ただ、 作業机が隣同士近くて通りにくく、遠い学生に指導しに行きにくいのが残念である。
アンケートの問１～７がアクティブ・ラーニングに関する質問であり、問８～11は教員と受講者の意思の疎通、コミュニケーション、授業資料等に関わる質問であり、問12は継続して学ぶ意欲を問う調査であると捉えている。昨年、独自に同じアンケート調査をしたときの結果と分析については、本学紀要『アクティブ・ラーニングの効果に関する研究 ― 教員養成における図画と絵画指導を通して ―』にまとめた（愛知教育大学研究報告. 教育科学編. 2018, 67(1), p. 221-228）。本年度の授業アンケート結果からは、授業外学習指示を守らない学生が半数近くいたので、復習として課題を出すか、予習をさせるかをじっくり考えてみたい。また、絵を描くことをどうしても好きになれない学生、絵に興味関心を持てない学生、英語によるコミュニケーションに意欲的になれない学生などを今後どのようにフォローするかを工夫したい。
今回、アクティブ・ラーニングのため、レポート（A4サイズ1頁）を持参し授業に臨む方法を10回行った。「宿題が多い」との回答者が1名、ただし「勉強になった」とあったので回数・分量を検討し続けていきたい。（M1A）
課題の意味が十分に伝わっていないところがあるので、伝えかた、例示の方法を考える。 もっと、学生が自分自身を振り返ることができるように体験することを増やしていきたい。 一人一人にさらに自分の考えを述べさせたり記述させたりする機会を増やし、①見たこと、経験したこと②それを通して感じたこと。考えたこと③そこから自分で決断について意識をさせることを通して一人一人の学びの質をあげる。
問8については、気をつけたい。
教材教具が分かりやすいかについては、配付資料を改善し、教育実習や現職になっても使える資料として、具体的な教材例を精選していきたい。
教材・教具（板書、プロジェクター、配布資料）をより分かりやすいものへ改善していきたいと考えています。また、質疑や討論のコメント等、学生とのコミュニケーションの改善等に努めたいと思います。
授業はわかりやすさが非常に重要で、板書の見やすさや、説明のわかりやすさに工夫した。重要な事項は繰り返し説明した。 教員からの講義だけではなく、受講者と教員のやりとりも交えながら授業を進めた。アンケートでは、授業がわかりやすいと考えている学生が多く、さらに改善できるよう努めたい。
授業の難易度や授業内容の量が多いという回答を踏まえ，次年度からは，難易度を調整しつつ，課題の量を減らす方向で検討していきたい。
ピアノの初心者の中には難しいと思う学生もおり、曲の選択の幅をもう少し広げたいと思いました。
ピアノの初心者の中には難しいと思う学生がいる点で、あらかじめ練習の方法等を示すだけでなく、個々に指導できる時間を見つけていきたいと思いました。

問10の回答で「どちらともいえない」学生が１名いました。実物投影機でピントがぼけて読みにくかった授業の回がありました。改善をはかりたいと思います。話方や説明についても多少「忖度」して肯定的に答えてくれたようですが改善をはかりたいと思います。
学習内容をより深めるために授業外課題を出す必要もあるだろう。
前述したとおり、授業内容の「難易度を落とす、内容を簡単なものにする、課題の量を減らす」等を検討している。 しかし教員免許に関わる授業において、学生からのアンケート結果を受けて安易で平易な方向へ合わせていくことには強く疑問を感じている。
概ね良好であると考えられるが，今後，他の授業でも自宅学習の時間についてもう少し質を求めることで自宅学習を行うような内容で指導したい。
パワーポイントなど授業資料を見やすくすること
よりフロー状態に持ち込めるように改善したい
同じ授業科目でも、人数が多いクラスは、内容が伝わりにくかったり、学生とのコミュニケーションが不足しがちなので、クラスによって内容を検討をしていく必要がある。
講義のテーマによっては、グループディスカッションも実施できればと考えています。
アンケート結果を見ると、学生たちで問題点を話し合ったり、自分なりの思考を展開したりして、次へつなげていく活動がやや足りなかったと感じた。制作後の鑑賞活動は行っていたが、こちらから一方的に授業を進めるのではなく、学生と更にコミュニケーションをとって進めていきたい。
今後、さらに学生のニーズを敏感にキャッチし、教育現場に精通した講義を心掛けたい。
『この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた』について「強くそう思う」と「ややそう思う」合わせて約95%～100%の回答が得られたこと、『授業の難易度』について「ちょうどよい」約90%・「難しい」約10%の回答が得られたこと、『授業で習得したことがらについて、自らの表現で伝えることができる』について「強くそう思う」と「ややそう思う」合わせて85%の回答が得られたことから、教員の意図と学生の学びが概ね噛み合ったと理解している。今後は、現在の授業の方向性を洗練させて、より学生の学習意欲を喚起できるように工夫を重ねたい。
この授業を通して自分なりの思考を展開することに繋がらなかった（問3）という回答者が数名いたため，この授業だけではなく他の関連項目にもつながるようなものにしていくことが必要である.
授業を受けて新しい考え方や知識・技能を身につけ、多様な考え方ができるようになったようであり、学生のみなさんが積極的に受講した結果、新たな発見や気づきを得たことはよかった。しかし、授業内では確かに積極的な参加態度が見られたが、授業以外での取り組みは少ないようである。さらに音楽に関わり、幅広い知識や音楽的経験を深め、音楽の授業をするにあたっての研鑽を積むことができるよう、課題設定などを考慮したい。

「毎回たくさんの準備をして、私たちのために濃い授業をしてくださいました」「ユニバーサルデザインをしっかりと取り入れた授業であったと感じます」と嬉しいコメントをいただきました。授業方法を伝えたいとこの2点は継続していきます。 話がわかりにくいことがあったとのご意見は、これから気をつけていきたいと思います。初めてのことは理解しにくいものです。皆さんの様子を把握して授業を進めて行きます。わからなかったらその場で質問ができる様に前もってお話しておくのと言いやすい雰囲気をつくるようにしたいと思います。 授業に集中していただきたいので、最初に携帯電話は電源を切るかマナーモードにすることを約束しています。今年の夏はとても暑かったです。同様に授業のけじめをつけるために放課に水分補給をしていただきたかったですが、今年のような場合はOKということでやっていきます。
「授業で提示された課題・参考文献・資料などを自ら検索・参照した上で、自分で問題点を深く考えた。さらに、その考えに基づき行動した。」ところで、評価があまりよくないので、今後学生が深く考えることができるような課題・学習内容に改善していきたい。また、授業のための学習時間が低いので、今後課題の出し方を改善していきたい。